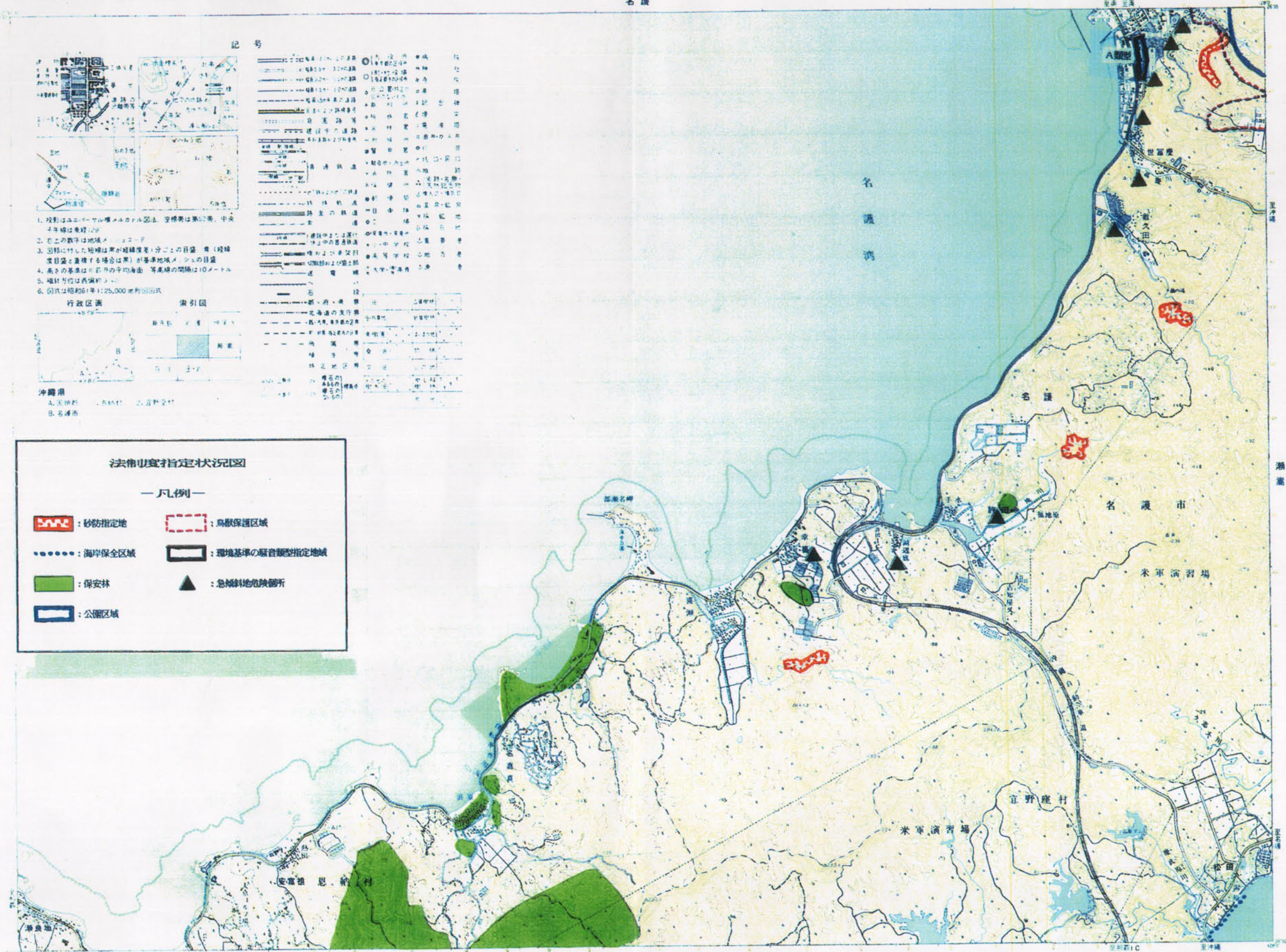




出典: 「沖縄県土地利用規制状況図」沖縄県企画開発部 (平成4年) 「騒音規制法に基づく規制地域の指定状況」沖縄県環境保全室 (平成4年2月告示)
「土地保全図 (沖縄県)」(社)全国国土調査協会 (平成6年) 「沖縄の自然」沖縄県自然保護課 (平成9年2月)
「平成8年度土地利用動向調査」沖縄県企画開発部 (平成8年11月)

昭和40年測量
平成10年改正
1. 使用した空中写真は、平成10年10月撮影
2. 現地調査は平成10年7月実施
3. 図式は昭和61年1:25,000地形図式

著作権所有 国土地理院 許可なく複製を禁ずる
平成4年1月1日発行 (3色刷) 2刷

図 1-10-1 法制度指定状況図 (第2回・沖縄県)

1-11. 広域モニタリング調査地域における人為的インパクトの整理

沖縄県は森林が大部分を占め、次いで面積が広いのが畑地の 10%であり、自然度が非常に高い。調査地域では、特に名護市の市街地の一部に人口が集中したが、海岸低地に走る国道と高速道路である沖縄自動車道沿いに住宅地やゴルフ場、リゾート施設、道路建設などによる人為的インパクトが集中した。人為的インパクトは、土地造成、観光地開発、道路開発などで、これらの人為的インパクトにより森林および田畑の面的喪失、線的喪失と分断化が進んだ。

調査地域における人為的インパクトによる森林の分断を評価する指標として、森林の連続性を示す CON 値を用いて調査し（参考資料 1. 参照）、その結果を図 1-11-1 に示した。

調査地域では、海岸沿いにわずかに分布する市街地を除き、ほぼ全域に連続した森林が分布している。

また、調査地域における森林の連続性を周辺の地域と比較するため、調査地域周辺 10km×10km、50km×50km、沖縄全体についても同様に CON 値を用いて調査し、その結果を表 1-11-1 および図 1-11-2～図 1-11-4 に示した。（なお、他の広域モニタリング調査地域では、それぞれの広域モニタリング調査地域が属する地方全体との比較を行ったが、沖縄県では同様の手法では九州沖縄地方になるため、調査地域周辺の状況を代表できないと考えられる。そこで、代わりに沖縄県全体を比較対象とした）

表 1-11-1 から、森林グリッド率は沖縄県全体では 46.6%で、調査地域の 86.0%に比較して半分近くの低い値であった。調査地域周辺の 10km×10km では 60.4%、調査地域周辺 50km×50km の範囲では、沖縄県全体とほぼ同じで 46.5%と、面積が広くなるにつれて森林グリッド率は減少した。これらから、調査地域は沖縄県の中でも、特に森林が広く分布している地域であることがわかる。

さらに CON 値についてみると、森林グリッド率と同じく、調査地域が最も高く 6.97 で、面積が広くなるにつれて CON 値が減少し、沖縄県全体では 6.18 となった。これらから、調査地域は沖縄県でも特に森林面積が広く、森林の連続性が高い地域であり、都市化の影響は比較的少ない地域であることがわかった。

表 1-11-1 沖縄県における森林の連続性の比較

統計値	対象範囲	10km×10km	50km×50km	県全域
森林グリッド率	86.0%	60.4%	46.5%	46.6%
CON値の平均	6.97	6.56	6.52	6.18

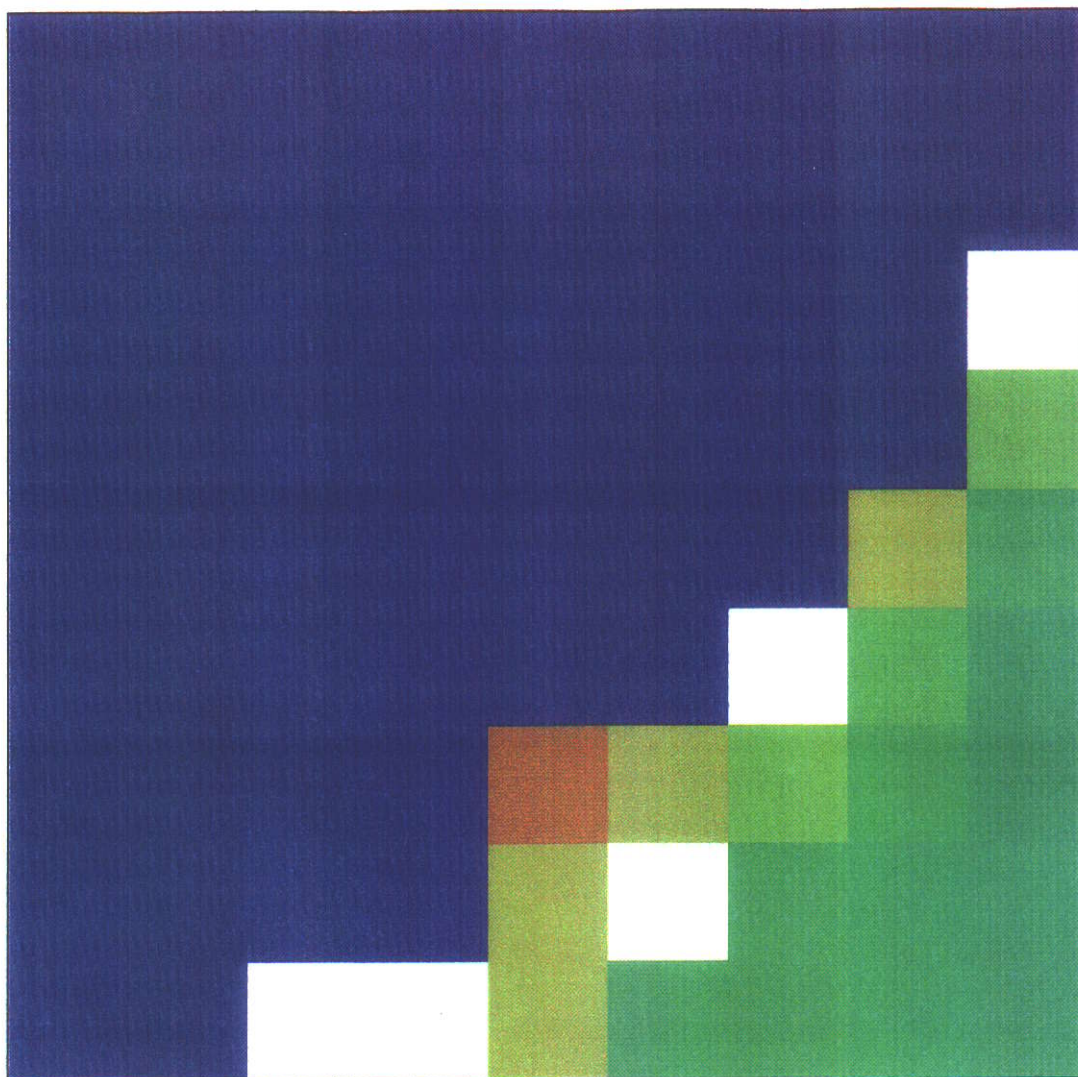


図1-11-1 対象地域のCON値分布図(沖縄県)



各種統計値	
森林グリッド率	86.0%
CON値平均	6.97
CON値標準偏差	1.60

凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。

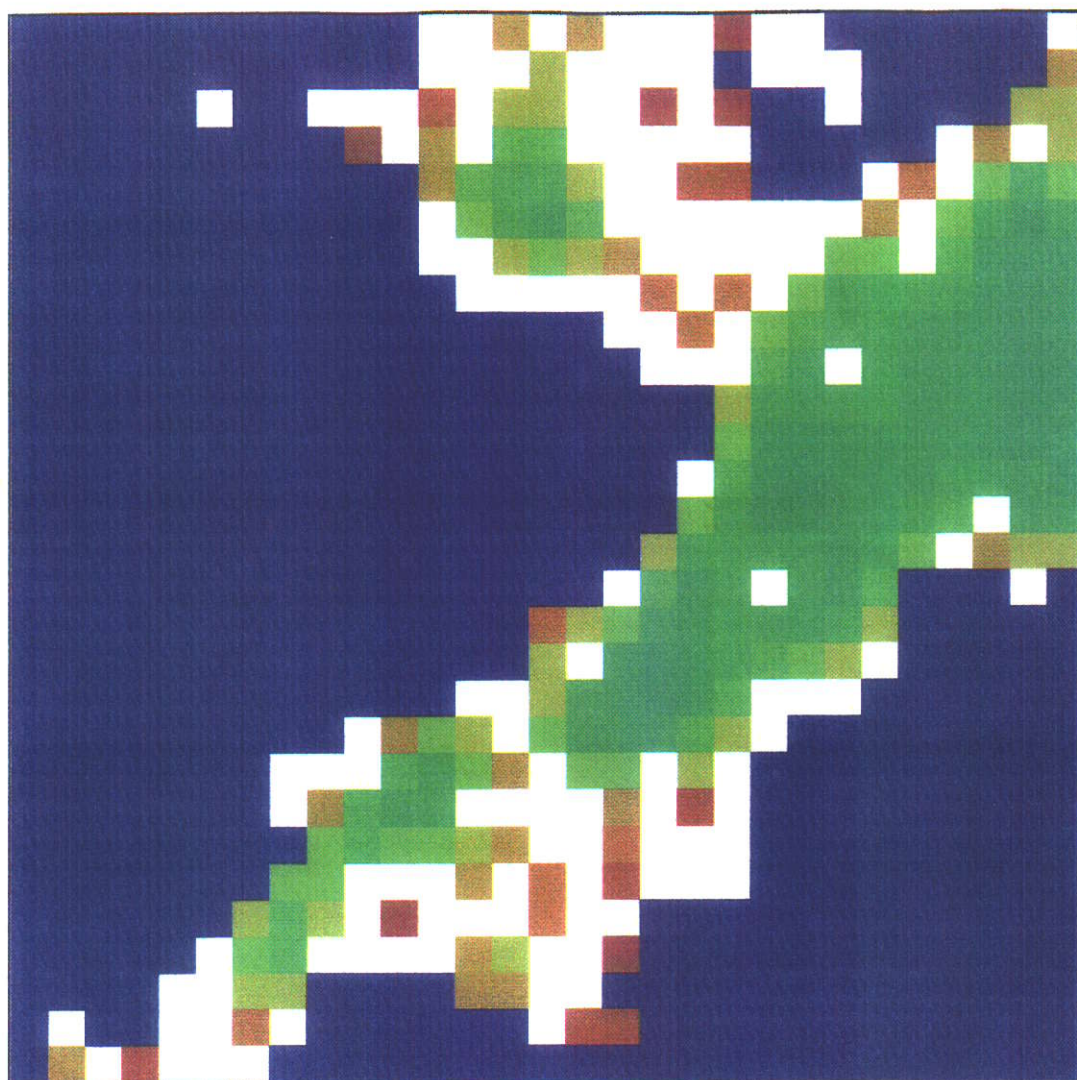


図1-11-2 対象地域周辺10km×10kmのCON値分布図(沖縄県)



各種統計値	
森林グリッド率	60.4%
CON値平均	6.56
CON値標準偏差	1.96

凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。

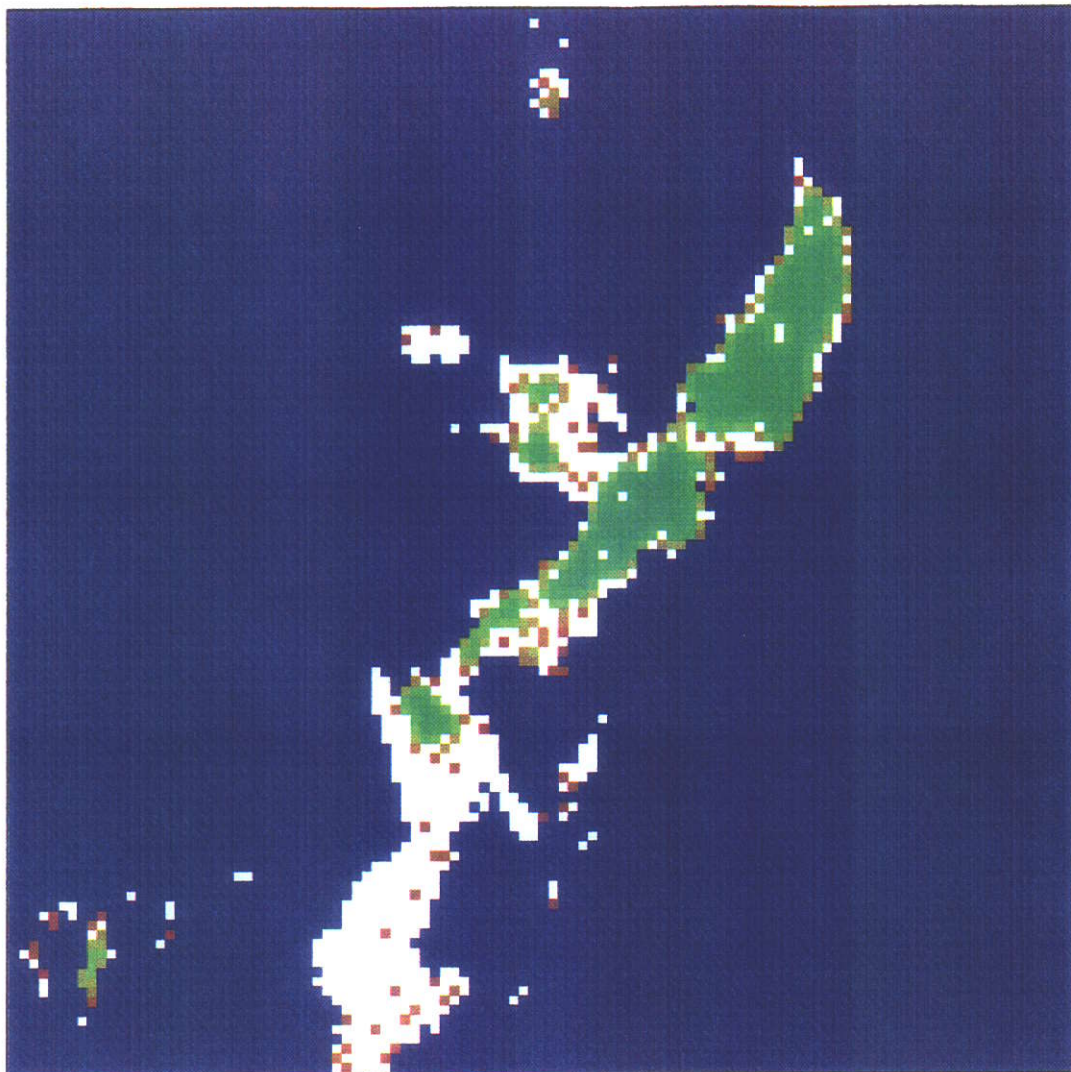


図1-11-3 対象地域周辺50km×50kmのCON値分布図(沖縄県)



各種統計値	
森林グリッド率	46.5%
CON値平均	6.52
CON値標準偏差	2.07

凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。

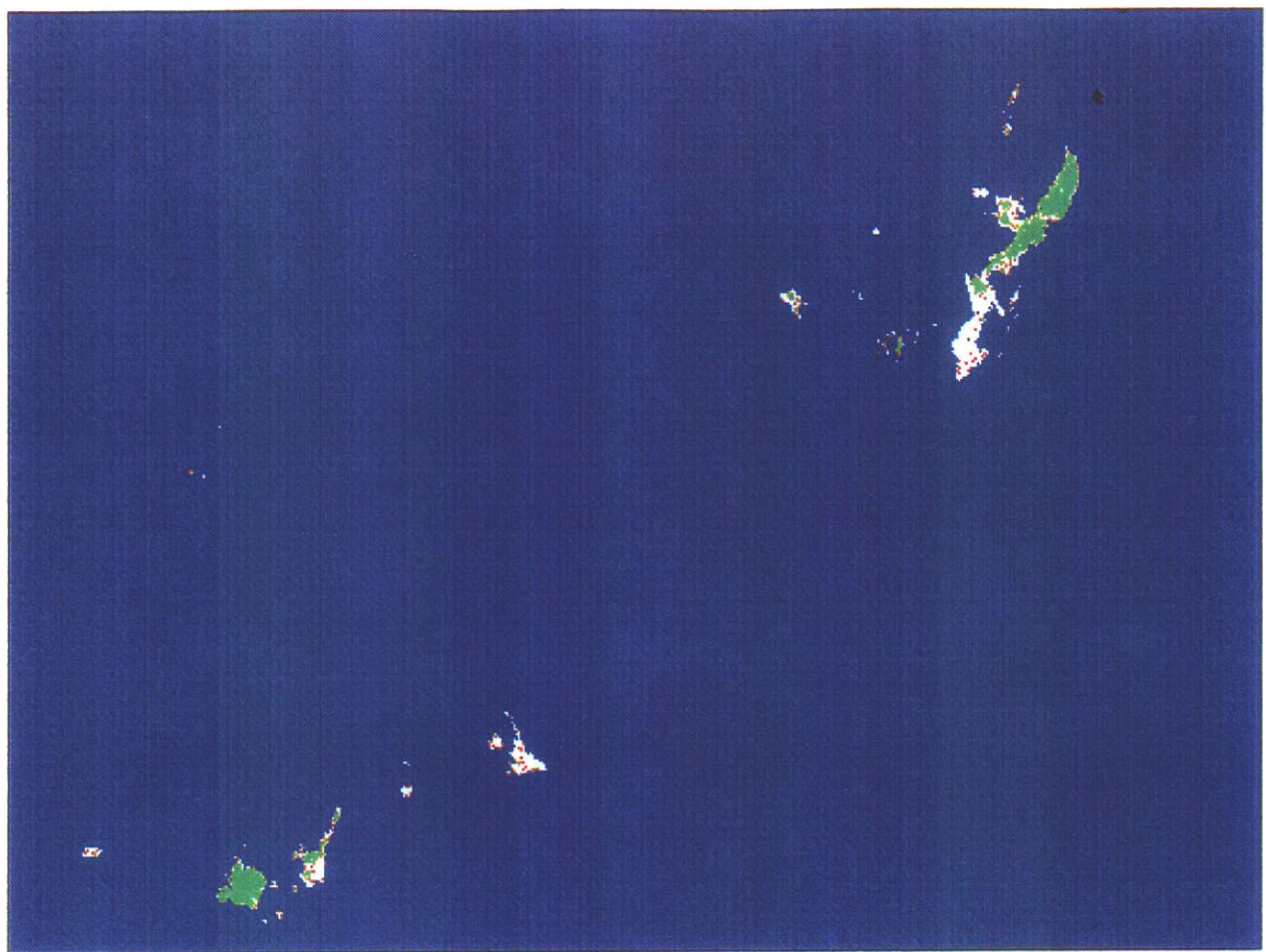
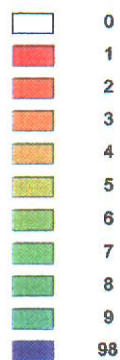


図1-11-4 沖縄地方のCON値分布図(沖縄県)



各種統計値	
森林グリッド率	46.6%
CON値平均	6.18
CON値標準偏差	2.27

凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。